

パキスタン派遣報告

店内で途切れることなく牛乳を袋詰めして売っているジュネード君は今、第5分校で10年生(中等教育最終学年)に通っています。彼のお父さんは昨年亡くなったそうです。お父さんが始めたこの店を彼とお兄さんの2人で切り盛りしています。

派遣報告「アル・カイルアカデミーと子どもたちの放課後」
(6~7p)より抜粋



お店で働くジュネード君(奥)牛乳やパン、お菓子などを売っている

目次

第17回定期総会報告	2 ~ 5p
派遣報告	
「アル・カイルアカデミーと子どもたちの放課後」	6 ~ 7p
チャエ・ケ・サート「ローティ」	7p

東葛センター便り「BAZAAR」	8p
千葉センター便り「古着というつながり」	9p
フォトギャラリー ~ 売る ~	10 ~ 11p
心根(こころね)フリマ通信	
「古着フェスティバル」	12p

第17回定期総会報告

2019年11月20日（水）に、J F S Aの第17回定期総会を行ないました。出席総数は87名（本人出席18名、委任状69名）で、提案された議案は全て承認されました。総会での議題は次の4つでした。

1. 事業・活動報告
2. 決算報告・監査報告
3. 来年度の活動方針案と予算案
4. 役員の選出



総会後の昼食会

出席いただいた方たちからの自己紹介

事業・活動報告、決算報告・監査報告の後、会員の方からご質問やご意見をいただき、各担当事務局が答えました。特に多かったのは、販売や回収に関するものです。

販売では、SNS（インスタグラム）の効果というご質問に対し、「実際の商品をインスタグラムで掲載しているの、現在お店でどのようなものが販売されているのかを伝えることができます。最近は何か良いものはないか」と何となく来店する人の動きが減っていて、目当ての商品を目的に、その場所に行くという動き方をするようになっていきます。お店にもInstagramに掲載されている商品についてのお問合せをいただくこともあります。今の時代に合った宣伝方法だと捉えています。」とショップ担当が答えました。

また、回収については、回収量がなかなか増えないことについて、「自分の働いている会社では、SDGsについての研修を行なっている。会社に向けて回収を呼び掛けると良いのではないか」「会報を発送する際に回収案内

を例えば10部同封し、ご近所に配ってもらい広めてもらってはどうか」という意見が出されました。



【事業・活動報告】

●古着類の回収とアル・カイル事業グループ（以下AKBG）への送り出し

1 古着・毛布などの回収

2018年度の回収は、計画を120トンとしました。センターでの回収受付期間は年に3回設けました。回収実績は113トン600kgとなり、計画に届きませんでした。前年度対比では111.7%となりました。

会員・支援メンバーの方からの送付は10トン63.1kgで、回収量の8.9%（延べ1237人）になりました。ご協力ありがとうございます。また、常総生協の取り組みが決まり、2019年9月から回収が始まりました。

衣類・毛布などの回収量

回収期間	回収量	送付人数
2018年9月1日 ～12月31日	40087.7kg	5491人
2019年1月1日 ～4月30日	31028.8kg	4728人
2019年5月1日 ～8月31日	42463.3kg	5872人
合計	113トン579.8kg	16150人

2 AKBGへの古着送り出し
計画した4回の送り出しを実行しました。送り出し量の平均は前年度（23トン697kg）より減少し、22トン760kgでした。この原因は回収量が計画に達しなかったためです。



卸業者の倉庫に降ろされたJFSAのボール
(ボール：1個50kgに圧縮梱包したもの)

3 AKBGの古着販売事業

JFSAからは4本のコンテナを輸出しました。コンテナの到着に合わせて事務局を派遣し、卸売価格交渉に参加しました。カラチ港からのコンテナ搬出の遅延等により、事務局派遣中にコンテナ荷降ろし確認を行なうことはできませんでした。AKBG事務局カユーム氏が荷降ろしに立ち会い、報告を受けました。(下表)

回収量と事業利益の増加を目的に、現在の回収品目を再検討するための現地調査を行ないました。現在回収していない新たな品目について需要を確認しました。回収品目の見直しの実行に向けて、調査を継続することになりました。



年に2回行なっているJR船橋駅北ロデッキの大古着市

●AKBGとの事業連帯の推進とアル・カイルアカデミーの自立支援

1 JFSA海外古着販売

古着ショップKapre(カプレ)千葉店では、陳列の工夫など販売環境の整理を行ない、売り上げは昨年度対比309%となりました。

2 縫製工房

担当事務局を一名置き、継続的な仕事作りを推進するために、日本で縫製工房と同規模の事業所を複数訪問しました。リメイク品やオリジナルの衣料を日本とパキスタンで製作する事業を「Karhana(カルハナ)」という名前で、新しく立ち上げました。

●国内事業

1 センター業務

①千葉センター 倉庫内作業場のレイアウトを変更し、作業の流れに沿った配置にし、在庫保管棚の増設を行ないました。

②東葛センター 作業場の移動や在庫置き場の整理を行ない、効率化に取り組みました。

2 ショップ販売

①千葉店 ショップの名前を「Kapre(カプレ)千葉店」とし、売り場を拡大し、輸入古着の取扱量を増やしました。セールやイベントを定期的に行ない、チラシ、ハガキ、インスタグラムを利用して宣伝を行ないました。若い年代のお客さんの来店が増え、輸入古着の売り上げが伸びました。

②柏店 輸入古着販売や事業者向けの卸売が伸びたことにより、予算を達成することができました。

3 街商販売

(フリーマーケット、その他)

大井競馬場、千葉銀座通り、赤羽公園、味の素スタジアム、日産スタジアムなどの会場に出店しました。古着フェスティバルなどのイベントで輸入古着を積極的に販売し売り上げを伸ばしました。着物販売では上野公園のイベントに延べ20回出店しました。

AKBG古着販売事業収支

	第63回 (2019年3月到着)	第64回 (2019年7月到着)	第65回 (2019年10月到着)	第66回 (2019年11月到着)	合計
古着等送出し量	22,975kg	22,203kg	22,975kg	23,211kg	91,492kg
収入合計(ルピー)	2,240,991	2,220,300	2,181,300	2,413,944	9,056,535
卸売価格(レート)	97ルピー/kg (1ルピー: 0.79円)	100ルピー/kg (1ルピー: 0.68円)	94.94ルピー/kg (1ルピー: 0.69円)	104ルピー/kg (1ルピー: 0.70円)	平均: 102ルピー/kg
経費合計(ルピー)	1,346,482	1,745,715	1,958,790	1,655,529	6,706,516
①日本サイド	903,639	1,049,185	1,036,204	1,026,404	4,015,432
②パキスタンサイド	442,843	696,530	922,586	629,125	2,691,084
純利益(ルピー)	894,509	474,585	222,510	758,415	2,350,019

第64回：パキスタンの輸入関税が引き上げられ、パキスタンサイドの経費が63回に比べ約1.5倍となった。

第65回：コンテナの中に申告と違うものが入っていないかという税関からの無作為の検査に当たってしまい、検査料金を追加で支払わなければならなくなりました。更に、検査が雨の中行なわれ、約40万ルピー分のボールが濡れて売れなくなってしまう、税関に抗議したが聞き入れられなかった。

4 販売協力団体

各団体と協力し、季節やお客さんに合った品揃え、定期的な商品の入れ替えを行ないました。売り上げの目標達成には至りませんでしたが、欲しい商品のリクエストや、入れ替えの日に合わせての来店がありました。

5 市民活動と運動した企画

団体会員、団体支援メンバーなどの協力を得ながら、市民祭りや着物市、イベントなどに参加し、販売と活動のアピールを行ないました。古着の回収を行ないました。

JR 船橋駅北口デッキにて、2回（11月・4月）支援バザールを開催しました。JFSA千葉センターでは6月と12月にチャリティバザール、JFSA東葛センターでは5月にkapre（カプレ）初夏のバザール、12月にkapre（カプレ）冬のバザールを開催し、大勢の来場がありました。



JFSA千葉センターのチャリティバザール（2018年12月）
センターの前の公園で行なったフリーマーケット

●広報活動と会員の参加

会報を年3回発行し、49号から、アル・カイルアカデミーやパキスタンに暮らす人々の様子を写真で紹介するページを設けました。発送には、送っていただいた切手などを郵送料として使用しました。

2019年7月には招日交流会を開催し、12人の会員、支援メンバーが参加しました。

コンテナ送り出し、会報などの発送、イベントなどにたくさんの方のボランティアの協力がありました。

会員数（2019年9月末日）

		会員数（新規入会数）	口数
個人	会員	143名（13名）	155口
	支援メンバー	1100名（127名）	1235口
団体	会員	12団体（1団体）	12口
	支援メンバー	5団体（0団体）	5口

●アル・カイルアカデミーの教育、連帯事業に関わるパキスタンの人々との交流

2018年10月20日から24日、2019年7月10日から17日までムザヒル校長とAKBG事務局のカユーム氏を招日しました。協力団体、JFSA会員・支援メンバーの皆さんとの交流をしました。

事務局派遣は、それぞれ目的（AKBG事業活動の推進、アル・カイルアカデミー教育事業の確認、輸入古着の仕入れ）に沿って行ないました。また、協力団体からは、（株）オイシックス・ラ・大地、グリーンコープ連合、ハンサリム連合（韓国）、グリーンコープファイバリーサイクルセンターの役員や職員の方々が事務局派遣に同行しました。



上：アル・カイルアカデミーの青空学校があるパラコート村に暮らしている若者から近況を聞いている事務局の依知川（右）

右：第65回コンテナ送り出し（2019年8月7日）とても暑い中での作業だったが、約35名のボランティアの皆さんの協力があり、衣類などを送り出すことができた



監査報告書

私たち監事は2018年度(2018年10月1日から2019年9月30日)の当会の事業と活動および決算と財務諸表について、10月31日に監査を実施いたしました。その結果、当会の事業と活動は総会の決定に基づいて滞りなく遂行され、決算と財務諸表は法令および定款に従い適正に処理されていることを確認いたしました。

2018年度は古着類の回収実績は年度計画の120トンに届きませんでした。しかしながら昨年度まで回収量は年々減少しておりましたが、当期は昨年比111.7%と回収量は増加しました。協力団体への回収呼びかけや各種イベントで配布した新しい名刺サイズの案内カードも有効に機能し、計画には届かなかったものの取り組みには一定の効果がありません。その一方で回収量は増加した反面、参加人数は昨年度比で微減しています。今後の回収量を安定的に達成するためにはより多くの参加者を増やすことが重要になります。SNSなども効率的に利用し、より多くの方に活動に参加いただく広報手段の検討が急務です。

4回の輸出は計画どおり行なえましたが、残念ながら1回あたりの輸出量平均は昨年度より減少しています。本会活動の基本にかかる事業で5年続けて回収計画が未達成であったことが大きな課題であります。当期に取り組んだ活動をさらにブラッシュアップし、2019年度は参加人数、回収量ともに増加、達成できるよう取り組んでいただきたいと思います。

販売事業では輸入古着の取扱量を増やしたこともあり、予算を達成することが出来ました。SNSの有効活用による若い世代への広報や事業者向けの卸売販売の効果もあり、売り上げを伸ばすことが出来ました。また新たな取り組みである「kar-khana(カルハナ)」事業の発展も期待いたします。今後の課題としては、新たな客層の確保やお店のファンを増やし、来店客増につながる仕組みづくりに取り組んでいただきたいと思います。

事業全体では、5期連続黒字を達成することが出来たことは大いに評価されるべきだと思います。一方で個人の会員、支援メンバーはともに減少しています。会員・支援メンバーは当会の基本的な活動基盤であり、会員の増減は活動支援の輪の広がりやのパロメーターでもあります。会員増を目指す広報の取り組みを積極的に行なうことが必要です。ホームページ上での広報、SNSでの日常活動の報告(毎日の動きがわかる事)、紙媒体も含め積極的なWEB広報を複合的に利用し、JFSAの活動理念と実施している活動を積極的に会員や社会に知らせてくれるよう期待しています。

JFSAの活動の「価値」がさらに共感を得て広がる事が出来るよう、役員、職員、会員の皆様や団体会員・支援メンバーの皆様一丸となって活動計画の達成に邁進いたしましう。

2019年10月31日

監事 水谷 靖之 熊谷 浩二

活動報告会 「kar-khana(カルハナ) 事業」のご紹介 ～縫製工場の今までとこれから～



kar-khana の
ホームページ



2018年度の新規事業「kar-khana(カルハナ)」の紹介をしました。「kar-khana」とは、ウルドゥー語(パキスタンの公用語)で工房という意味です。この事業を立ち上げるに至った経緯、パキスタンの縫製の仕事の様子など、パワーポイントの映像を見ながら、担当事務局の小島が報告しました。

その後は、イベントやkatre店内で販売している製品を紹介。バッグなどは手に取ってみたい、衣類やショールは身に着けてみて、素材や縫製、デザインを確かめてもらいました。製品の説明を聞きながら、「これってそんなに手間がかかっているんですか・・・」「とても着心地が良いです」という感想をいただきました。

上: デニム地で作ったパーカー

このパーカーはスウェーデン軍のスノーパーカーを参考にして作った

下: 軍物の足首周辺を保護するゲイターで作ったティッシュケース



帰宅後弟たちと勉強をする様子（スンプルさん 中央）

海外事業担当事務局 依知川 守

今年7～8月の事務局派遣では、協力団体「オ
イシックス・ラ・大地」の藤田会長と職員の方2
名、そして藤田会長と交流があり、先日急逝され
た俳優の木内みどりさんが同行されました（木内
さんは現地で大変お元気な姿でしたので、信じ難
く大変残念です）。

職員の豊島さんから、訪問前に「子ども達にイン
タビューをする」と帰宅後に自習している子が多
いようだけど、実際子ども達は放課後どんな風に
過ごしているのですか？」と質問がありました。
本校の給食室で働き、4人のお子さんがアル・カ
イルアカデミーに通っているナズィアさんに相
談して、お宅を訪問させてもらいました。

ナズィアさんと家族

ナズィアさんはカラチ出身で、公立学校
で8年生まで学んだそうです。7時40分
から17時までアル・カイルアカデミー本校
の給食室で働き、給料は1か月9千ルピー
だそうです。他にも自宅のミシンを使っ
て、女性用の民族服作りの内職も行なっ
ていると教えてくれました。生地はお客さん
の持ち込みで、1着200から250ル
ピーだそうです。

「大変だと感じるのは、子どもや家族が怪
我をしたり病気をしたときです。一番下
の子（4歳の男の子）が数週間前、家で机か
ら落ちてしまい腕を骨折して手術しまし
た。今は毎日病院へ通いリハビリをしてい
ます。子ども達には努力をして、良い人間
になってほしいです。」と語ってくれまし
た。

夫は、従業員20名ほどの小規模のTシャ
ツ工場で働いていて、給与は1週間で2千
ルピーほどです。この2人の稼ぎで家計を

支えています。ナズィアさんの月給9千ル
ピーはアパートの家賃相当で、夫の週給2
千ルピーが家族の食費に相当します。ま
た、夫の母親と同居をしています。

ナズィアさんの家は本校前の広場を挟ん
で真向かいにあるアパートで、家族7人が2
部屋で暮らしています。スンプルさん（長
女 アル・カイルアカデミーカレッジ2
年）に、学校から帰宅後、どんな風に自習
しているのか見せてもらうことはできま
すか？と尋ねると、快く弟達を呼び写真のよ
うに再現してくれました。彼女は「カレッ
ジから帰宅すると、母が帰宅するまでの時
間帯に弟たちの勉強をみながら自分も勉強
します。カレッジ卒業後は大学へ進学し
て、将来は銀行で働きたいです。」と抱負
を語ってくれました。本校までよく見通せ
るこの部屋に机は無いため、枕を机代りに
して、床に座って勉強していました。本校
に通う子ども達が家で過ごす様子は、こ
れまでの家庭訪問の経験からこのスンプル
さんと大きく変わらなさそうです。



ナズィアさんの家の窓から
奥に見える建物がアル・カイルアカデミー本校

第5分校周辺の村

次に私たちは本校周辺の様子が変わる第5分校周辺の村を訪問しました。村の小さな商店街を歩いていると、あちこちで分校の生徒や卒業生達とすれ違っています。

通りがかったクリニックの中を覗くと、分校の生徒が二人、仕事を手伝っていました。一人に声をかけると「月1千ルピーもらっているよ」と教えてくれました。もう一人はまだ見習いで無給だそうです。同行したナヴィード先生は「彼らの父親は定職についているので、子どもは働かなくても暮らしてはいけるでしょう。何もせずブラブラしている」と悪い仲間へ引き込まれるので、お母さんが仕事をさせているのです。」と教えてくれました。

クリニックの向かいには食料品店がありました。店内で途切れることなく牛乳を袋詰めして売っているジュネード君は今、第5分校で10年生（中等教育最終学年）に通っています。彼の父親は昨年亡くなったそうです。父親が始めたこの店を彼とお兄さんの2人で切り盛りしています。「午前3時半に水牛のミルク280キロを仕入れに行きます。そして、そのミルク50キロを、バイクでカチラクンディ（※）へ配達します。カチラクンディで暮らす人たちは朝早くから仕事をするので、4

時半に着く必要があるのです。集落に着くと、住民が直ぐに買いに集まってきます。」と手を休めることなく、彼は教えてくれました。ジュネード君は13時半に学校から帰宅して少し休んでから、この店で再び15時から20時まで働いているそうです。

「生徒は通常は8時前に登校する必要がありますが、彼は家計を支えるために朝も仕事をしています。ジュネード君は登校が1時間遅れてもよいことにしています。」というナヴィード先生の言葉からは、それぞれ様ではない生徒の暮らしと、彼らに寄り添い学び続けられる環境作りに努める先生達の姿が想像されました。



（※）カチラクンディ
焼却施設のない大都市カチラチには数カ所のゴミを集積する場所がある。そこでは人々がゴミを野焼きして、燃えかすから有用物を集めて売り、暮らしている。この広大な地域にアル・カイル・アカデミーは2002年に第2分校を開校した。

「ローティー・・・」

ロティ：全粒粉を捏ねて作った無発酵の薄焼きパン



●チャエケサートの意味は・・・
パキスタンの公用語「ウルドゥー語」で「チャエ」は「温かいミルクティー（チャイ）」、「ケサート」は「一緒に」で「チャイと一緒に」という意味になります。パキスタンではチャイを飲みながら、賑やかにしゃべりを楽しみます。

パキスタン滞在中、朝食が終わる時間に外から「ローティー・・・」という少し擦れたような子どもの声

が聞こえてきます。彼らは住民が食べ残したロティを集めて回っているのです。ロティは基本的には全粒粉を捏ねて作られた無発酵の薄焼きパンの総称で、チャバティやバラタ（油が練り込まれたパイのような生地）などいろいろな種類があります。しかしパキスタン人の友人に尋ねると「ロティにはナンも言います。人で言うなら民族がロティ、氏族がチャバティやバラタかな？」と分類についてパキスタン人らしい答えが返ってきました。ロティには、それぞれの生活と共に表す範囲がありそうです。ちなみにバラタは食事にも、チャイに付けて食べても美味しいです。現地では食事の時にロティ一枚を皆でちぎり合って食べています。

写真は、公園の片隅にロティの回収をしている子ども達が集まっていた時に、声をかけて撮らせてもらったものです。皆、学校へは通っていませんでした。一緒にいた友人は「彼らは集めたロティを自分たちで食べることもある



集められたロティ

あるだろうし、家畜の糞にするんじゃないかな？」と言いました。別の日、カラチ市内で、電線や鉄、ロティなどの買い取り業者の店を見つけた。店員に価格を尋ねると「ロティは1キロ15ルピーで買い取り18ルピーで売る。水でふやかしてから飼料と混ぜて水牛の餌にするんだよ。買取りで一番高いのは電線などの鉄、その次が鉄だね。」と教えてくれました。小麦が作られ、粉になり、ロティになったあと家畜の餌となる・・・小麦の辿る道と、そこに関わる子どもや大人たちの暮らしの一端を感じる出来事でした。

B A Z A A R

東葛センターでは12月8日にkapre BAZAAR (カブレバザール)を開催しました。

年に2回、行なっているこのイベントでは、店内の特別セールや、餅つき、真澄農園さんの有機野菜、NPO法人せっけんの街の手賀沼せっけんなどの販売も行なっています。また、今回のカレー販売は、パキスタンレストラン(モンターズレストラン 白井市)で働く料理人が作る本場の味を皆さんに味わっていただきました。

今回、初の試みとしてJFSAの定期総会でも紹介させて頂いたkar-khana (カルハナ)の企画としてワークショップを行ないました。スタッフと一緒にミシンでヨーロッパのテイタールを用いた巾着袋や、3枚のパンダナを繋ぎ合わせたあづま袋を作る体験です。実際に参加していただいたのは1名のみでしたので、反省点を踏まえ、次回のバザールにむけて趣向を凝らして新しい企画や、ワークショップの参加者を増やしていこうと思います。

東葛センターの最寄駅、つくばエクスプレスの柏たなか駅の周辺はほとんど新築の戸建てができ、主に20代から30代ぐらいの世帯が引っ越してきている様子を見ます。



kar-khana (カルハナ) の巾着袋
パキスタンから輸入したタペストリーをリメイク



kapreBAZAAR お店の駐車スペースで出店準備中



大好評だったモンターズ
レストランのビリヤニ

「バターチキンカレーはそこまで辛くないですよ」
と勧める事務局の小島

東葛センター担当事務局 小島 慧

また、駅前にも複合商業施設が建設予定となつていきます。昨年、初めて周辺の様子を知るためにバザールのチラシをまきに行つたのですが、そのころと比べてもずいぶん変わってきています。今回のバザール当日も、幼稚園生ぐらいの子どもを連れのお母さんたちが、お餅を食べながら談笑している姿があり、自分よりも前から働いているスタッフは新鮮だと言っていました。色々な年代の方々が立ち寄れるようなイベントであり、場所になつてきているということかもしれません。

古着というつながり

JFSAでは、「販売協力団体」という名称で、商品を預けて売ってもらおう、委託販売を行なっています。現在は、千葉県内の関係のある団体のお店や拠点、3箇所で常設販売しています。

その中の1箇所、自然食品を扱うお店「アースマーケット」（千葉市美浜区高浜1-10-1）は、団地が立ち並ぶ中にある、スーパ―、八百屋さん、自転車屋さん、中華料理屋さんなど数店舗が軒をつらねる、高浜ショッピングセンターの一角にあります。アースマーケットの店先にはベンチが置いてあり、行き交う人がちよつと休んだり、おしゃべりをしたりしています。並びにある中華料理屋さんの前では、いつ行っても中国の方たちが外に座っておしゃべりやゲームをしている、たまり場になっています。老若男女、様々な人が来る、オープンな雰囲気は、なんとなくJFSAに似ています。

委託で置いてある古着は、2週間に一回、入れ替えに行きます。その際に出会う常連のおばあさんが何人かいます。この時期は、厚手のズボンやセーターなどの防寒着が特に人気で売れ行きが良く、2週間ごとの入れ替えの合間に、商品の補充をする

ことも度々あります。おばあさんたちの様子を見てみると、古着を買った後は並びにある八百屋さんやスーパ―に向かったり、通りがかった別のおばあさんとおしゃべりしてから帰って行ったり。もちろん、アースマーケットで買い物をすることもありますが、JFSAの古着を目当てに来てくれる方々なのです。



JFSAの古着やタオルなどが並ぶアースマーケットの店頭

彼女たちが常連としてきてくれるのには、店主の野田さんの存在が大きいです。「定休日に作業したらおばあちゃんたちが来ちゃってねー。見たいつて言うから、ラックを外に出したら、セーターがけっこう売れたよー」、「この前、古着の回収もしてるって言ったら、すぐ家に戻って持ってきてくれたおばあちゃんがいっぱい。ここで買ったセーターも入ってるからね。まだいっぱいあるからまた持ってくるねって言ってたよ。」など、私が行くと販売の様子や、時には愚痴や世間話をしながらも、様々なアドバイスや提案をしてくれます。時々困った要求をしてくたりもするおばあさんたちのことも、きっと大事に思っているんだろうな、ということが伝わってくる、愛のある愚痴をいつも聞いています。

約3年前、委託販売を始める際、委託者・受託者はもちろんですが、買いに来る方も含めて三者が利益を得られる形にしたいよね、と話し合って、それを目的にしました。3年経った今、ようやく委託者↓受託者↓お客さん↓また矢印が委託者に戻る という三者が輪になる関係を実感することができています。古着という素材を媒介として、JFSAと他の団体やお店、そこを運営する人、そこにやってくる人が繋がっていきける場を、今後も広げていけるといいなと思います。

千葉センター担当事務局 大橋 紀子

بيچنا

「売る」代金と引き換えに品物や権利を相手に渡す

ベチナー



風船とお菓子を売りに来た男性とカチラクンディに暮らすこどもたち
男性は、はだしだった



ゴミの中から集めた有価物を売りにきた子ども
(カチラクンディ)
有価物は種類（鉄・アルミ・銅・プラスチック・
動物の骨など）で価格が決まっていて、重さで
買い取られる



上：果物の引き売りをしている少年たち 旬の果物を売っている

右：アル・カイルアカデミー本校前でジュースやスナックを売っている屋台
授業が終わった子どもたちが買いに来る



上：パキスタン北部のマンセラという街のスパイスショップ
この店では色々な種類の豆や米も売られていた

右：クリフトンビーチで土産物売る露店の店番をしている少年
休日には多くの人が訪れている



古着フェスティバル

10月19日(日)、第3回古着フェスティバル(大井競馬場)が開催され、「出店しました。このイベントは国内大手の古着屋が主催し、「古着業界を盛り上げていこう!」という趣旨の下、日本全国の古着屋と個人約200店が軒を連ねるお祭りです。JFSAは2017年の1回目から参加しています。特徴の一つは、来場者の多さで(主催者発表で約1万人)、その中でも10・20代の若いお客さんが圧倒的に多いです。九州や東北など遠方から来たという人もいました。これだけの「古着好き」が集まるイベントは他にないのではないかと思います。集客の目玉になっているのが全国の古着屋さんが多数出店すること、店頭ではやらないようなスペシャルセールが行なわれることです。そんなセールが行なわれているブースは、お客さんでごった返していました。

私たちもこの日に合わせて、パキスタンから輸入した商品の準備を行ない、ハイエース一杯の荷物で当日に臨みました。多くの出店者がしのぎを削る中、果たしてJFSAのブースにお客さんが来てくれるのか、心配もありました。結果としては、街商販売(フリマ・イベント等)の1日の売り上げとしても年間で一番良い売り上げとなり、ほっとしました。また、店舗が千葉県(千葉市・柏市)



フリーマーケット出店情報
https://jfsa.jimdoofree.com/



写真: kapre千葉店で販売しているパキスタンからの輸入古着
古着好きな10〜20代の若者の来店も増えている

にあることを紹介すると、「今度、行きます!」と喜んでくれる千葉在住の方も多いです。イベントを通して店舗に足を運んでくれる方が増えることを期待しています。このイベントは年2回開催される予定です。次回の開催日は未定ですが、出店予定ですので、機会があればぜひお越しください!



ボランティアのご案内

- コンテナ送り出し作業
日時: 1月25日(土) 8時半〜15時半頃
場所: JFSA千葉センター
(中央区都町 3-14-10)
- ・圧縮梱包した衣類などをコンテナに詰め込みます。
- ・お昼はボランティアの皆さんと一緒にパキスタンカレーをいただきます。
- ※ご都合が合う時間だけでも構いません

★その他のボランティア

- イベント・フリーマーケットなどでの協力(週末)
- 切手やハガキの整理
- 会報など発送作業(年4回)
- 古着の選別体験(グループのみ)
- 和服整理ボランティア(毎月第1火曜 10時半〜)

お問い合わせはJFSAまで

会員・支援メンバーを募集しています

JFSAは正会員及び賛助会員(支援メンバー)で構成されています。
皆さんの参加が、パキスタンの人々との連帯事業を推し進める力になります。

2019年度 正会員 個人: 120名、団体: 8
賛助会員 個人: 947名、団体: 6 (12月19日現在)

会員・支援メンバーの方には、会報・回収案内(年3回)、サポーターグッズ(年1回)をお送りします。

- 年会費(10月〜翌年9月)
個人: 会員 5,000円 / 支援メンバー 2,000円
団体: 会員 50,000円 / 支援メンバー 10,000円
- 会費振込み口座(郵便振替)
番号: 00160-7-444198
口座名: JFSA
*活動への寄付にも同じ口座がご利用できます。
通信欄に「寄付」とお書き添え下さい

NPO法人 日本ファイバーリサイクル連帯協議会(JFSA) (9時〜19時半/木曜定休)

千葉市中央区都町 3-14-10 Tel: 043-234-1206

★会報についての感想やご意見もお気軽にどうぞ。

電話・fax: 043-234-1206 メール: jfsa@f3.dion.ne.jp ホームページ: https://jfsajpn.org



JFSAのホームページ